

“多発性硬化症は、40歳過ぎるとどうにもとまらない！？”

Evidence for a two-stage disability progression in multiple sclerosis

【背景】多発性硬化症(MS)とは、時間的、空間的に多発する脱髄病変であるという常識にとらわれ、発症した患者さんは、寛解と増悪を繰り返すものだと思っておりましたが、実は、発症後1年以内に寛解する Relapsing onset 群と1年以上持続する Progressive onset 群が存在することを始めてしました。今回は、MSの発症から進展の多様性を、つぶさに解析した論文です。

【方法】フランスの2054例のMSのデータベースを基に、Relapsing onset 群(n=1609)、Progressive onset 群(n=445)に分類、さらにonsetからmoderateな病態(DSS3)までの初期=Phase 1とDSS3から重症(DSS6)に至る後期=Phase 2への進展を中心に解析が行われました。

【結果】Relapsing onset 群では、女性の頻度がより高く、若年発症が多いのに対し、Progressive onset 群では高齢発症が多い特徴を有していました。また、今回注目した phase 1 への進展は、Relapsing onset 群では10年かかったのに対し、Progressive onset 群では2年、phase 1 から phase 2 への進展は、Relapsing onset 群では7.4年、Progressive onset 群では6.6年でした。また図に示すとおり、Relapsing onset 群においても、発症が高齢になるにつれて、phase 1 に至るまでの期間が短くなっており、一旦 phase 2 に突入すると、ほぼ同様のペースで phase 2 に進行していくことが明らかになりました。

次に、phase 1 あるいは phase 1 から2に進展するリスクファクターについて検討した結果、高齢発症、男性、progressive onset、再発回数が多い、再発後後遺症があるなどが、早期に phase 1 へと進行しており、また、phase 1 に進展後は、再発回数が多い、あるいは、1年以上寛解しない; progressive type へと転換した患者群が、早期に phase 2 へと進行していることが明らかになりました。

以上のように、多発性硬化症も、その発症様式やその後の進展様式には多様性がありますが、どうも、若くして発症したMSでは、疾患抑制の機序との戦いを繰り返しながら、寛解・増悪を繰り返し、ちりちりと進展していく Relapsing onset 群が多く、そういう典型的なMSも、40歳をこえるあたりでは、疾患抑制のパワーも衰え、progressive に進んで行くような感じがするというのが、詠み人、湯浅先生の感想でした。40歳を越えた人間には、なぜだかうなずけてしまうお話でした。

(文責阿比留)

